原発事故後の畜産経営再開者が抱える課題　～福島県飯舘村を事例にして～
Problems that Livestock Breeders have after the Nuclear power plant accident. ～In case of Iitate village, Fukushima prefecture～

佐藤聡太
Sato Sota

1．研究の背景と目的　東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故により、福島県飯舘村は現在も避難生活を余儀なくされている。飯舘村で行われた村民へのアンケート(1)では、帰還する場合に希望する行政の支援として生活の再建、健康面での対策、商業施設の再開や新設などの他に「村内での営農」が挙げられている。飯舘村での農業産出額の内訳(2)をみると、村では稲作に次いで肉牛の生産が多く、“飯舘牛”という黒毛和牛が特産品であった。原発事故により飯舘村内における全畜産農家が廃業を迫られたが、避難後も畜産経営を続けている、もしくは再開した人もいる。

本研究では、避難後の村外で肉用牛の経営を再開した飯舘村民の方（以下、対象者とする）を対象とし、対象者の避難後の畜産経営における課題を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法　文献調査や飯舘村役場への聞き取り調査を行い、本研究における対象者の数を把握する。その後飯舘村役場や調査協力者などを通して、対象者に連絡を取る。本研究への協力が得られた対象者に聞き取り調査を行い、避難後の畜産経営における課題を明らかにする。

3. 予想される結果と考察　通常、畜産経営における課題として、経営者の高齢化、高齢化・廃業等による子牛の減少、飼料価格高騰による収益悪化、施設の老朽化、野鳥などの侵入(3)などがある。本研究の対象者は上記の課題に加えて、特有の課題を抱えていると思われる。その課題は牛舎の確保、後継者や担い手問題の深刻化、新規販路の開拓、周辺住民とのコミュニティの形成、村との繋がりの維持などである。とくに牛舎の確保は周辺住民の理解が必要であるが、牛舎には「匂いが臭い」、「牛の鳴き声がうるさい」といったマイナスなイメージがある。牛舎の確保には困難を極め、移転が決まるまでには時間もかかる。始めは牛舎移転の承諾を得られたとしても、後にマイナスなイメージが周辺住民の日常生活で現れはじめ、トラブルの原因となることも予想できる。

4. 進捗状況　肉用牛の経営再開者は 9 人確認でき、うち 5 人への聞き取り調査を行い、次ページの表 1 にまとめた。以下、飼育頭数、利用前の牛舎、現在の課題について紹介する。

飼育頭数に関して、日本における一戸当たりの繁殖経営者の飼育頭数(子取り用雌牛)は 11.9 頭、肥育経営では 79.9 頭(4)である。本研究の対象者は 5 人中 4 人が日本の平均よりも上回っている。

利用前の牛舎の状態として、本研究の対象 4 人の土地が廃業した畜舎であったことが分かった。本研究の対象者たちはその畜舎を肉用牛が飼育できるようにリフォームし、使用しているのである。Y さんに関しては土地を購入後、ビニールハウスを牛舎として利用している。

現在の課題として、通常の畜産経営者における課題と避難したことによる特有の課題の 2 つに分けられる。通常の畜産経営者における課題としては担い手がいないことや人手の不足といったこと

東京大学　農学生命科学研究科（Graduate School of Agricultural and Life Sciences at the University of Tokyo）
キーワード：飯舘村、畜産経営再開者、課題

が挙げられた。避難したことによる特有の課題に関しては、土地不足、経営の循環、村との繋がりを維持したいという課題が挙げられた。“土地不足”を課題として挙げたのは福島県内の対象者である。荒廃農地や耕作放棄地の面積が年々増加しているが、大規模でまとまった土地は少ないことや牛舎の移転における近隣住民へのマイナスなイメージが、土地不足の原因に繋がっていると思われる。また、“村との繋がり”を課題として挙げた Y さんは「子育て世代は子供の健康を考えなければならない。子供が高校を卒業した頃に村へ戻り畜産経営を再開したい。」と話してくれた。

表 1. 畜産経営再開者の比較（Table1. Comparison of breeders）

経営者（年齢）	MA さん（60）	I さん（55）	T さん（67）	MI さん（63）	Y さん（37）
調査日	2016.02.20	2016.02.11	2016.02.12	2015.12.27	2015.11.10
調査地	千葉県山武市	福島県相馬市	福島県福島市	宮城県蔵王町	北海道栗山町
他の従業員	妻、パート	叔父	妻、息子、義娘	妻	妻
経営形態	繁殖・肥育	繁殖	繁殖	繁殖・肥育	繁殖
飼育頭数*	98 頭（32 頭）	13 頭（13 頭）	29 頭（29 頭）	30 頭（10 頭）	36 頭（20 頭）
（子取り雌牛）	142 頭(50 頭)	35 頭（35 頭）	38 頭（23 頭）	32 頭（8 頭）	25 頭（25 頭）
牛舎の	35,000 ㎡	300 ㎡	152 ㎡	2,000 ㎡	21,000 ㎡
敷地面積*	15,000 ㎡	500 ㎡	432 ㎡	2,500 ㎡	21,000 ㎡
利用前の牛舎	牛舎（乳用）	豚舎	鶏舎	牛舎（肉用）	牧草地
現在の課題	担い手がいない	人手不足、土地不足	土地不足	牛舎不足	経営の循環、村との繋がり
今後の展開	畜舎の移転、担い手探し	規模の拡大、事業の会社化	規模の拡大	規模の拡大	規模の拡大
備考	同市内に牛舎移転予定有	村の農業・営農再開委員	村で水田放牧実証実験中	飯舘電力株式会社 社長	飼料畑を70,000 ㎡所有

＊上段は避難前（飯舘村で）のデータ、下段は避難後のデータ。

5. 今後の予定　今後は残りの 4 人の対象者の聞き取りを行い、表 1 と同様のデータを集めていく。本研究で得られた本研究の対象者の課題に関して、避難先の役所や飯舘村役場、農業機関での聞き取りを行う。生産者とは異なる立場の方への聞き取りを通して、本研究で挙げられた課題に対する多方面からの考察を取り入れていく予定である。

（参考文献）

(1) 飯舘村役場『いいたて までいな復興計画（第 5 版）』p.95
http://www.vill.iitate.fukushima.jp/saigai/wp-content/uploads/2015/05/6f7995d3bdda4b69be489a99522a70e6.pdf
(2) 農林水産省『飯舘村　基本データ』
http://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/07/564/index.html
(3) 農林水産省 肉用牛・食肉関係の課題　pp.15-19
http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/tikusan/bukai/h2605/pdf/05_data5_rev.pdf
(4) 農林水産省 『平成 26 年度　食料・農業・農村白書』第 2 章 p.143 表 2-4-3
http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h26/pdf/z_all_2.pdf